

教養部会准教授 森田 裕之

1. 研究活動

(著書)			
ドゥルーズ＝ガタリのシステム論と教育学—発達・生成・再生	2012. 10	学術出版会	博士論文を加筆修正した著書。本書は発達に基づく従来の教育の定義を批判した上で、新たに教育を定義し直すを試みる。そのために、ヘーゲル、ニーチェ、バタイユの思想を参照項としながら、ドゥルーズ＝ガタリのシステム論を教育学的に読み替え再構築する。そして、再構築されたシステム論に依拠することによって、教育を、発達と生成と再生という相互に次元を異にする諸変容の絡み合いとして捉え直す。
(研究ノート)			
人間の変容についての考察	2013. 3	『名古屋芸術大学人間発達研究所年報』第2巻	本稿では、博士論文とそれをもとにした著書『ドゥルーズ＝ガタリのシステム論と教育学』において展開した理論のアウトラインを描き出した。従来、教育学は人間の变容を発達として一元的に考えてきた。しかし、その考えは不十分であり、人間の变容には、発達とは別に、それには還元不可能な生成と再生という諸変容が存在していることを明らかにした。そして、この生成と再生という諸変容が、発達という変容に劣らず教育にとって重要であることを示した。
(学会発表)			
ドゥルーズ＝ガタリのシステム論の教育学的展開	2012. 9	教育哲学会第55回大会 (於：早稲田大学)	対をなす発達と生成の諸変容は、教育学的問題圏の一つを形成する。本発表では、ドゥルーズ＝ガタリのシステム論に依拠して、これまで教育学が問わなかった生成変化の変容がこの問題圏の論理的前提になっていることを示した。生成変化とは、凡庸な人間ゴッホが突然、狂気に襲われつつ傑作を生み出すことができる芸術家になる変容として歴史的に表れる変容だ。そして、この生成変化を教育学として語るこの意味を明らかにした。

2. 教育活動 (教育実践上の主な業績)

大学院授業担当 ■有 □無

3. 学会等および社会における主な活動